

令和8年度 学校マネジメントシート

三重県立白子高等学校

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿		○ 互いの人権を尊重し、心豊かな生徒を育てる学校 ○ 学力向上と進路実現を図り、自立した生徒を育てる学校 ○ 地域から愛され応援される、誇りを持った生徒を育てる学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○お互いを認め合い、豊かな人間関係を築くことができる生徒 【規則や約束を守る力、意見を聴く力、意見を発信する力、働きかける力(周囲を巻き込む力)】 ○自分で考え、行動し、主体的に生きることができる生徒 【基礎的・専門的な知識、課題を見つけ解決に取り組む力、物事に進んで取り組む力】 ○共に支え合いながら、地域社会のために貢献できる生徒 【進路や職業を選択決定する力、自己の役割を認識し実行する力】
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像の実現に向け、情報共有と意思疎通を図るとともに、同僚性を重んじ、教職員一丸となって教育活動に取り組むことができる教職員集団 ○仕事にやりがいを感じ、個々の生徒の学力の向上と個性の伸長を目指し、協働して教育課題の解決に取り組む教職員 ○優れた人権感覚と社会人としての良識を備え、法令を遵守し、信頼される教育活動を展開する教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	生徒)①安心・安全で、楽しく学べ、活気ある学校生活 ②学力の伸長 ③希望する進路の実現 《保護者(家庭、PTA)》①安心・安全で、規律ある学校生活 ②基礎学力の修得 ③希望する進路の実現 《地域》①地域を支える人材の育成 ②地域の活性化 ③災害時の防災機能	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	《保護者(PTA)》 ○安全・安心な学校、情報の共有 ○規律ある学校生活の維持 ○学力の向上、進路実現 《地域住民(自治会)》 ○防災機能の強化、地域との連携 ○地域の活性化のための協力・交流 《中学校》 ○学力・体力の向上、特別活動(部活動・学校行事等)の充実 ○キャリア教育の推進、進路の実現 《大学、事業所、NPO等》 ○マナー、コミュニケーション力の育成 ○基礎学力の定着 《同窓会》 ○魅力的な学校教育活動と、その情報発信	《保護者(PTA)》 ○教育活動についての共通理解 ○学校・家庭の連携と役割分担の確立 ○親子間の豊かなコミュニケーション 《地域住民(自治会)》 ○教育活動への理解と支援 ○防災についての情報共有 《中学校》 ○中高の相互理解と緊密な連携 ○本校への理解と適切な進路指導 《大学、事業所、NPO等》 ○キャリア教育充実のための連携強化 ○求人数の増加 《同窓会》 ○学校との緊密な連携及び協力

(3)前年度の学校関係者評価など		○成果と課題を分析するとともに、目標値の達成未達成を明確にし、更なる教育活動の充実に取り組み、特色化・活性化していく必要がある。 ○目指す生徒像に掲げる3年間で生徒に育む力を明文化し、生徒・保護者・学校で共通認識して日々の教育に取り組むことは、互いの資質向上に大変効果的である。 ○不登校等の課題を抱える生徒へのオンライン授業や特別支援教育の活用等、個々の生徒に対応した柔軟な教育活動を継続して欲しい。 ○「総合的な探究の時間」については、各学科・コースの専門性や特色が出せるよう探究的な学びや成果報告会を工夫改善していった欲しい。 ○働き方改革が推進される中、過重労働時間とストレスチェックの両面から課題を分析し対策をとっていく必要がある。
(4)現状と課題	教育活動	○生徒の主体性を育む授業の推進 ・授業を通して生徒の主体性を引き出せるよう、教科科目を中心とした知識や技術の定着と共に探究心を高める授業づくりを推進する必要がある。 ・高校3年間で育みたい資質・能力を生徒・保護者・学校が共有し、一層理解を深め、その目標達成に向けて共に教育活動に取り組む必要がある。 ○キャリア教育の充実で活気ある学校生活 ・自身の興味関心、地域社会の課題等と向き合いながら探究活動に取り組み、主体性や地域社会に貢献する力を一層育む必要がある。 ・互いに認め合い、共に支え合える、充実した学校生活を過ごせるよう、運動部・文化部共に部活動を一層活性化する必要がある。 ○特別支援教育の視点を生かした安心・安全な学校づくり ・個々の生徒の発達課題に適切に対応し、自立する力を一層育むため、組織的に特別支援教育を推進し、そのノウハウを学ぶ必要がある。
	学校運営等	○信頼関係をより一層構築できる教員の資質向上 ・生徒や保護者とのコミュニケーションを円滑に行うために、コンプライアンス意識向上や資質向上のための教員研修やミーティングを一層充実させる必要がある。 ○主体性を引き出す教育活動 ・各教科の授業、学校行事、部活動等すべての教育活動のなかで、探究的に学び、生徒が主体的に考える機会が増えるよう、一層の工夫改善が必要である。 ○保護者・地域との連携及び情報発信【生徒の活動や成果を発信する機会を充実】 ・生活創造科、文化教養コース、普通科(教養・進学)の4つの教育課程の成果を地域等に発信していく必要がある。 ○働きやすい職場環境づくり ・職員の仕事の偏りや時間外労働の縮減に取り組むとともに、風通しの良い職場環境の構築を行い、情報共有・コミュニケーションの機会を増やす。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○生徒が安心して生き活きと学べる環境づくりを進めるため、全ての教育活動を通して自尊感情や自己肯定感を高め、人権感覚あふれる学校づくりを進める。 ○生徒の主体的に学ぶ力を育むため、一人一台端末と、整備されたICT環境を活用し、授業改善や評価手法の充実、生徒の変容把握等に取り組む等、日頃からきめ細かな学習支援を積極的に進める。 ○社会的・職業的自立に必要な力を高めるため、生徒が自己理解や職業理解を深め、適性に応じた進路の実現に向け、授業・学校行事・資格取得・部活動等を通じてキャリア発達を促す取組を一層充実させる。
学校運営等	○信頼される学校であるための行動計画に基づいた教育活動を進め、教職員の意識改革と資質向上に努め、更なる信頼の構築を図る。 ○各部署の活動内容や手続きの見える化を進めて連携を深め、組織力を高める。 ○職員相互公開の授業研究や観点別評価の研究、生徒の主体性を育む対話力育成研修等を進め、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。

	○ 安心・安全な学校づくりのための仕組みを強化する。 ・生徒の完全下校時刻の設定による、生徒・職員の安心・安全、健康の確保を行う。 ・防災訓練の充実、安全点検の強化、施設・設備の充実を図る。 ・社会に開かれた教育課程の実現を目指し、家庭・地域との連携を進める。
--	--

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミSSION・ポリシー】	《普通科、普通科・文化教養(吹奏楽)コース、生活創造科共通》 ○明確な目標と目的意識を持って高校生活に取り組める生徒 《普通科》 ○全ての教科学習に対して真面目に取り組める生徒 ○勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある生徒 《普通科・文化教養(吹奏楽)コース》 ○全ての教科学習に対して真面目に取り組める生徒 ○吹奏楽活動に興味・関心があり、高校生活において継続して努力する強い意志のある生徒 《生活創造科》 ○家庭に関する知識や技術の習得に興味があり、真面目に取り組める生徒 ○勉学をはじめ、スポーツ・文化活動や生徒会活動またはボランティア活動等に取り組んでおり、入学後も高校生活において継続して努力する意志のある生徒
---	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力の向上と定着	(1)外部指標を活用して生徒の学習における成果と課題を把握し、改善策を講じる。 【活動指標】 ・(2学年)基礎力診断テスト(事前課題も含む)・学習状況リサーチを3回実施。 ・(1学年)「スタディサプリ」到達度テスト(事前課題も含む)・学習状況アンケートを2回実施。 ・各学年及び3教科で、上記テストを資料とした中間振り返り及び年度末総括の実施。 ・各学力層へ向けた課外授業の実施(発展課外・基礎的課外の実施) 【成果指標】 ・(2学年)基礎力診断テスト「C3」かつ「学習力レベル4」以上が生徒の50%以上 ・(1学年)「スタディサプリ」到達度テストで基礎学力の測定を行い、単元ごとの強み・弱みを生徒自身が把握している。		※

	(2)ICT 等を利用し、個別最適化学習(指導の個別化・学習の個別化)をより一層推進する 【活動指標】 ・ICT を活用した学びの推進を目指したガイダンスの実施(学習の個別化) ・(2学年)結果個票を利用した事後課題の取組を年3回実施。 ・(1学年)「スタディサプリ」到達度テストとの連動課題を利用した事後課題の取組を年2回実施(指導の個別化)。 【成果指標】 ・(2学年) 「1日の学習時間1時間以上」の生徒が25%以上 「授業外学習レベル4以上」の生徒が30%以上 ・(1学年) 「1日の学習時間1時間以上」の生徒が25%以上 - オンライン課題提出率50%以上 「スタディサプリ」学習動画の視聴本数/配信本数 生徒平均 10 本以上/30 本		※
キャリア教育の充実で 活気ある学校生活	(1)3年間を見通した、「総合的な探究の時間」の充実とキャリア教育を推進する。 【活動指標】 ・年間計画に基づいた「総合的な探究の時間」において探究的な学びの推進。(実施回数 15回) ・「総合的な探究の時間」において発表会を2回以上実施 【成果指標】 ・学校アンケート 「キャリア教育が充実している」と回答した生徒の割合85%以上 「自身の興味関心や問いを深めることの楽しさを知ることができた」と回答した生徒の割合70%以上 (2)進学・就職試験での面接等を含め、社会的・職業的な自立に向けた資質を育むため生徒への指導と支援の充実を図る。 【活動指標】 ・3年生への面接指導の充実(就職希望者7回以上) ・進学指導の充実(進学希望者2回以上) 【成果指標】 ・就職試験結果での内定率85%以上 ・進路希望調査に書かれた志望校への合格率85%以上 ・自尊感情に関するアンケート「自分の判断や行動を信じる事ができる」と回答した生徒の割合(60%以上) (3)「生きる力」のベースとなる規範意識、コミュニケーション能力を高め、自主・自立の精神を促し、主体的に行動できる生徒を育てる。 【活動指標】 ・生徒が主体的に規律ある学校生活を送るための、挨拶を中心とした生徒指導の実施。(通年実施)		◎

	・頭髪服装指導(8回実施) ・ICT の安全・安心な利用を学ぶ講座(年1回実施) ・生徒会等を中心とした学校生活の改善に関する取組(通年実施) 【成果指標】 ・学校アンケート「規範意識が高まった」と回答した生徒の割合(97%以上) ・自尊感情に関するアンケート「自分の判断や行動を信じる事ができる」と回答した生徒の割合(60%以上)		
安心・安全な学校	(1)心身の健康をサポートし、安心して通学できる安全な環境整備を図る。感染症、熱中症、不審者対策等に対し、生徒が自助や共助の行動が取れるように努める。また、多様な生徒に対応するため、スクールカウンセラーや教育相談員、発達障がい支援員、スクールソーシャルワーカーなど外部専門家を適切に活用し、学校として組織的な支援を行う。また、いじめ防止に向け、学校全体で具体的な取り組みを行う。 【活動指標】 ・国や県の示すガイドラインに基づく安心・安全な環境・体制づくり。(危機管理マニュアル見直しと職員への周知や情報発信) ・教育現場向け連絡システム「すぐる」への加入割合90%以上 ・生徒・保護者に対し適切なタイミングでの意図的な情報発信を行う。(保健だよりの発行月1回) ・スクールカウンセラー、教育相談、スクールソーシャルワーカー、特別支援コーディネーターを活用 ・自校通級(週2回以上実施)の取組の充実、課題を職員間で共有し理解を深める。 ・生徒指導部・保健部の連携及び、各学年保健係・生徒指導係との連携した取組。 ・オンライン授業等で、生徒の学びの機会を保障する。 ・いじめアンケートの実施(学期毎実施) ・いじめ防止のためのキャッチフレーズを各クラス1つ以上挙げ、学校全体で取り組む。 【成果指標】 ・学校アンケート「安心して学校に通える」と回答した生徒の割合 90%以上 ・学校アンケート「学校に悩みを相談する場所(人)がある」と回答した生徒の割合 90%以上 (2)命の大切さや人権に係る教育を系統的に実施し、生徒の安心・安全と健康を守る。 【活動指標】 ・交通安全教室、薬物乱用防止教室、保健 LHR などの「命を大切にする教育」の実施 ・人権教育推進計画にそっての取組を実施し、人権感覚あふれる学校づくりに取り組む。		◎ ※

	【成果指標】 ・学校アンケート「本校は、お互いを思いやり、尊重し、生命や人権を大切に指導をおこなっている」と回答した生徒の割合(90%以上) ・自尊感情に関するアンケート「自分の個性を大切にしたいと思う」「自分の事を必要としてくれている人がいると思う」と回答した生徒の割合(80%以上) (3)大規模災害に備え、避難先・避難経路の確認及び点検 訓練を通して生徒自身が自助と共助の行動が取れるように努める。 【活動指標】 ・1次避難訓練・2次避難訓練の実施(特に1次避難訓練については、完全形態で実施)(4, 8月実施予定) 【成果指標】 ・避難訓練の大切さを理解した生徒(90%以上)		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組及び信頼の構築	(1)学校の課題と情報を共有し、学校全体での取組を進めるため、全員研修会を実施する。 【活動指標】 ・学校の抱える教育課題の解決にむけた教員研修を年2回実施 ・「資質・能力ルーブリック表」の教員への周知・理解を進める。 ・通級指導の成果(多様な生徒への効果的な対応等)を普通の授業研究に応用する。 【成果指標】 ・研修会後のアンケートの満足度80%以上 ・学校アンケート(教員用) 「資質・能力ルーブリック表」を意識した教育活動ができた」100% 「多様な生徒に対応しやすい授業づくりを心がけることができた」70%以上 (2)信頼される学校であるため、一人ひとりが教育活動を自己点検し、コンプライアンス意識の向上に努める。	(年度末および適宜記載)	◎

	【活動指標】 ・信頼向上委員会での課題の検討と行動計画の策定 ・定期的なコンプライアンスセルフチェックの実施(3回) ・コンプライアンス研修(3回以上) 【成果指標】 ・学校アンケート 「教職員は、生徒が相談したときに、親切に応じてくれる」満足度80%以上 「教職員は、生徒達の進路希望実現に向け熱心に取り組んでいる」満足度 80%以上 ・教職員による不祥事を0件にする (3)来校者等の立場に立った接客対応(相手が安心する窓口・電話対応) 【活動指標】 ・主務者が相手側の立場に立った資料作成等を徹底し、主務者以外の職員によるチェックを確実に実施するとともに、「ホウ・レン・ソウ」の日常化の徹底 ・全ての職員は窓口・電話対応時に分かりやすく適切な言葉で対応 【成果指標】 ・不適切な対応による重大な危機の発生(0件) ・生徒・保護者・来校者等からの事務対応にかかる苦情件数(0件)		
授業の改善と充実	(1)外部附指標の成果と課題の分析を教員間での共有を通して授業力の向上を図る 【活動指標】 ・外部附指標の結果に関する分析会を年2回以上開催 【成果指標】 ・学習状況調査「授業理解姿勢(レベル4以上)」の生徒80%以上 (2)現行の学習指導要領の3観点に対応した、わかりやすく学習意欲を引き出すための授業の工夫を進める。 【活動指標】 ・職員相互授業公開を年2回以上実施 ・教科担当者による授業アンケートの実施 ・ICT を活用した授業の実施。 ・自動採点ソフト活用の割合の増加 【成果指標】 ・授業公開後、授業者が参観者と振り返りを行った割合(65%) ・学校アンケート「(教員は)生徒が意欲的に取り組むよう授業を工夫している」と感じた生徒の割合80%以上 ・ICT を活用した授業を実施した教員の割合80%以上 ・学校アンケート・授業が分かりやすいと回答した生徒の割合70%以上 ・授業アンケートによる生徒の授業満足度75%以上 ・自動採点ソフトを活用することにより、業務負担が軽減されたと感じる教員が80%以上		※

	・ICT を活用した授業に関する教員同士の学び合い		
保護者・地域との連携 及び情報発信	開かれた学校づくりの一環として、地域・産業界と連携した取組を推進するとともに、保護者や地域への情報発信を適時行い、生徒の状況や学校の対応などを適切に周知する 【活動指標】 ・HPで校内の様子を発信する(学校行事・特色ある授業・部活動等)(35以上更新) ・各部活動等独自の情報発信との連携を進める。 ・報道機関への資料提供(年間 8 回以上) ・学科やコースの専門的で特色ある取組を地域や産業界と連携した機会を活用し、成果を発信する。(通年実施) 【成果指標】 生徒・保護者・教員への学校生活アンケート 「地域から愛され応援される誇りを持った生徒を育てる学校」について活気に満ち生き生きと活動している学校と思う割合(各 75%以上)		
働きやすい 職場環境づくり	(1)働き方改革を推進するため、総勤務時間の削減に取り組むと共に、部活動ガイドラインに沿った適切な部活動の実施に努める。 【活動指標】 ・生成 AI を活用した校務軽減のための職員研修を行う。 ・毎月全部活動が活動計画書を作成、提出 ・定時退校日に定時に退校できた職員の割合 95%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後開催された会議が、60 分以内に終了する割合を90%以上 ・夏季休業中に学校閉校日を2日設定 【成果指標】 ・時間外労働時間を、一人あたり月(21時間以下) ・年360時間を超える時間外労働者数(0人) ・月45時間を超える時間外労働者数(延べ人数0人) ・一人当たりの年間休暇取得日数(17日以上) (2)円滑な組織運営の一環として、事務職員と教員が連携して教育環境の改善を進める。 【活動指標】 ・共有備品の見直しや点検に関する検討会議(毎学期 1 回) ・所属不明物品の整理整頓(通年実施) ・備品の点検、更新(通年実施) ・型式の古い備品の新規入れ替え(3種類以上) ・老朽化した施設設備の改修(通年実施)		※

	【成果指標】 ・校内の環境整備が進んだと感じる生徒・教員が50%以上		
改善課題			

6 学校関係者評価

明らかにになった 改善課題と次への 取組方向	
------------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	
学校運営について の改善策	